

子ども参画型社会創造支援事業の成果と課題について（事務局まとめ）

1 子どもの人間性と主体性を育てる視点から

（前期審議会調査研究報告書より）

- ・ のびのびと意見を言い合えること、子どもたちが年齢や学年を越えて協力できていること、地域の特色を生かして活動していること、様々な大人達が支援していることから、子どもたちが生き生きと活動している。
- ・ 子どもたちが地域づくりに参画し役立っているという自己肯定感を育むことにつながっている。
- ・ 今後は、一定の学校や地域に留まらず、さらに多くの子どもたちと地域を、市民センターが核となって巻き込んでいくことが必要。

（資料2より）

- ・ 子どもたちがまちづくりに関わり、自己有用感や達成感を味わい、活動意欲が高まった。
- ・ 事業に参加した子どもたちは、活動交流会や成果報告会などを通じて、互いの活動について知り、これまでの活動を振り返ることで、達成感や充実感を味わい、今後の活動の意欲が高まった。
- ・ 事業に参加した子どもたちは、自分たちにできることを考え、地域社会の協力も得ながら活動することで、地域への関心を高めるとともに、「地域の一員」としての自覚を持つことができた。
- ・ 子どもたちは、取組を通して地域住民と交流するなかで、達成感や充実感を味わい、今後の活動意欲が高まった。

2 地域づくりへの広がり視点から

（前期審議会調査研究報告書より）

- ・ 子どもたちの視点による活動は、地域の魅力を改めて発見しまちを元気にする力や、周りを巻き込む力がある。また、地域の課題に新たな視点を投げかけ、取り組んでいく原動力にもなる。
- ・ 「子ども事業」において子どもと大人が協働することにより、地域に対する多角的なまなざしや意識が醸成される。そこから、周りを巻き込む子どもの可能性や誰でも学べる場づくり、地域の新旧の魅力やこれから直面するであろう課題の発見といった様々な成果が生まれている。
- ・ 「子ども事業」で得た成果を他の地域や事業にも広げ生かしていくことで、市民活動を支えるネットワークの拠点として地域づくりやまちの活性化に貢献することができ、持続可能な取り組みとすることができる。

（資料2より）

- ・ 事業に関わった大人同士のネットワークも構築することができた。
- ・ 事業に参加した子どもたちは、自分たちにできることを考え、地域社会の協力も得ながら活動することで、地域への関心を高めるとともに、「地域の一員」としての自覚を持つことができた。

3 市民センターの役割、事業手法の視点から

（前期審議会調査研究報告書より）

- ・ 子どもたちと地域の団体をつないだり、地域住民との交流や学校・学年を越えた交

流を行う、地域の中でのコーディネーターとしての役割を概ね果たしている。

- ・職員が子どもたちに寄り添いながら、学校や家庭、地域だけではできない活動を提供して、子どもたちの豊かな発想やおもてなしの心を育んでいる。
- ・子どもたちと地域住民との積極的な関わりを生み出し、その成果を持続可能なものになっている。
- ・多様な人々や団体とのつながりを作っていくことが求められている。
- ・今後は、市民センターが相互に連携し、他の地域や事業の関係者同士が交流できる場を提供することで、子どもたちの活動をさらに飛躍させることを期待。

(資料2より)

- ・区毎に事業を実施したことで、多様なアプローチがあることが明らかになった。
- ・市民センター（地区館）との関係、「自分づくり」と「地域づくり」との関係等、目指すべき方向性について、各区分での共通理解がなされなかった。
- ・子どもを対象とした事業のため、連絡、交通手段を確保することが難しかった。
- ・今後、学校等との連携を意識し、事業に取り組むとともに、情報発信を行う。
- ・市民センターや各学校へのリーフレット配布により、事業への関心を高めることができた。